

レオタードの縫い方

普通の縫い方だと糸が切れるので [ニット用のレジロン糸](#)を購入してください。

図のような三本線の柄を選択上糸の調子を強めにして縫ってください。

これだとかなりの伸縮でも耐えます。

お試しください



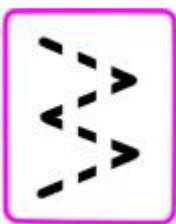
後身頃を表が内側になるように重ね、後中心を縫って下さい。

(お尻が大きめ、もしくは生地への伸びが悪い場合は、後中心からえりくびから下に[コンシールファスナー](#)をつけると着替えがより楽になります)

ちなみに写真の服は[株式会社カトウさんの2WAYパンデックスという生地](#)を使用しました。

通常MLサイズを着ている人間がそのままスクール水着を着替える感覚で脱ぎ着が出来ていました。

レオタード生地はほつれにくいのでほつれ止めしなくてもいいですが、どうしてもほつれ止めをしたい方は2枚一緒にほつれ止めしてください。



←ジグザグ縫い



ニットのほつれどめの仕方。

*ニットは縫った後にほつれ止めをしていきます

点線のジグザグ縫いを選んでね。

←大概のミシンにはこのような点線で描かれたジグザグ縫いの模様があると思うので、これを選択します

(3点ジグザグといいます)

※2WAY はほつれにくいので、どうしてもうまく縫いにくい場合はしなくてもOK



ニットは縫っているとどんどん伸びたりずれたりして長さが合わなくなったり、伸びたりします。

そこで細かい番手の紙やすりを帯状に切って、布と押えの間にはさむと、伸びやズレが減ります。

紙やすりを使うと安定感がありますが、急ぎで紙やすりがない！というときはコピー用紙を切って挟んで縫うだけでも伸びが抑えられます。

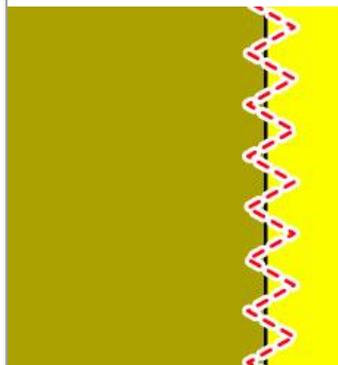
※一緒に紙やすりを縫わないように注意。



前身頃と後身頃を表が内側になるように重ね、肩と脇と股の下を縫って下さい。



ぬいしろを1cm内側に折り、まち針を刺してください。

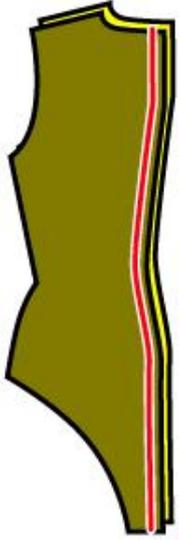


上で説明した3点ジグザグを利用して縫い代を固定してください

図のように、縫い代の端をまたがるように縫ってください。



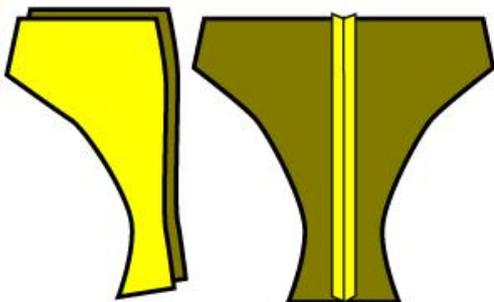
前がこのようなタイプを作る場合



後身頃を表が内側になるように重ね、後中心を縫って下さい。

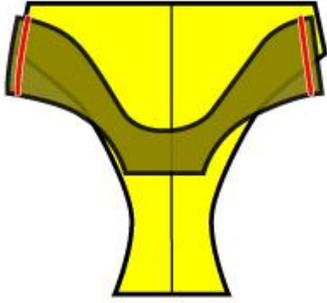


前身頃と後身頃を表が内側になるように重ね、肩と脇を縫って下さい。



見返しの後身頃を表が内側になるように重ね、後中心を縫って下さい。

縫い代を左右に折ってアイロンをかけてください。



前見返しと後見返しを表が内側になるように重ね、脇を縫って下さい



身頃の下部分と見返しをを表が内側になるように重ね、またの下を縫って下さい。

カーブの縫い代に切込みを入れてください！！表側に返したときに引きつらなくなります。



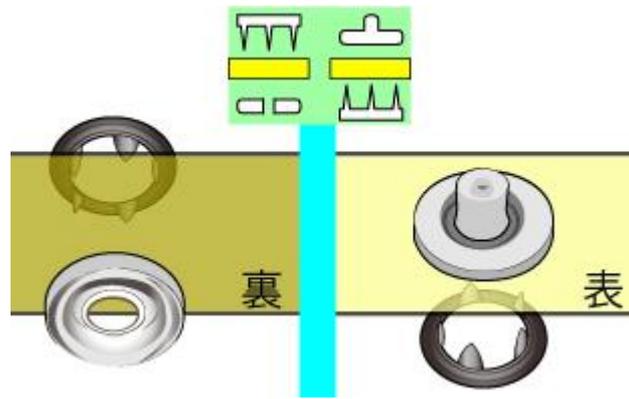
見返しを裏に返して、端から5~7mmくらいの所を縫ってください。



見返しの上側もミシンで縫うか、難しければゆるめに手縫いで縫ってください。



またのところにリングスナップをつけてください



上側に凹 下側に凸をもってくると着替えの時に凸の部分が体にあたらないので痛くないですよ

◆ 必要な材料 ◆

表生地(縦横に伸びる生地)

ファスナーをつける場合はコンシールファスナー50cm以上のもの1本、

股の下をスナップにする場合はリングスナップ

ニット糸